

I 日本財団のご支援がインクルージョン社会の未来を創る

私たち、日本フロアホッケー連盟は、障がいの有無、年齢、性別にかかわらず、あらゆる人を対象として、ユニバーサルスポーツであるフロアホッケーの普及に関する事業を行い、このスポーツを通して、地域社会の人と人との交流を促進し、地域の絆の再生を図り、インクルージョンの社会創造に寄与することを活動の目的としています。

今回、日本財団の CANPAN プロジェクトの事業に応募し、「インクルージョン社会の創造のためのフロアホッケーの波及・推進」事業に助成金をいただくことができました。これも偏に、笹川陽平会長のもと、一つの地球に生きる、一つの家族として、人の痛みや苦しみを誰もが共にし、「みんなが、みんなを支える社会」をめざす日本財団の崇高な理想と卓越した組織力の賜物と感謝申し上げます。

特に、「公」の仕事を「民」の立場から支え、助成先とのパートナーシップを通じて、個性豊かで活力に満ちた、みんながみんなを支える社会を作り出すという理念は、私たちの「一人ひとりのありのままの素晴らしさを認め合い、助け合って暮らすインクルージョン社会」への想いと同じく、日本の社会をより豊かに、より幸せにする基盤となるものです。

お陰様で、普及に不可欠なフロアホッケー用具の拡充や各地で開催される体験会・交流会・研修会等の実施で、たくさんの笑顔を創り出すことができました。これは、私たちと日本財団が手を取って、一人ひとりが自分にできることで社会を変えるというソーシャルイノベーションの輪として確実に広がりを見せました。大会に参加する障がいのある方々・家族・学生・支援者の方々が、本助成金で購入した新たな用具を身に着け、会場狭しとプレーするフロアホッケーの美しさは、障がいの有無を超えた地域生活や社会参加を支える仕組みづくりの礎になるものと実感いたしました。

こうして小さな一歩を歩み始めましたが、全国への波及効果はまだまだ課題も散見されます。今後も行政・企業等の組織協力を一層進めるとともに、多くの皆様を巻き込んで、そのご理解・ご支援をいただいでインクルージョン社会創造に寄与してまいります。

本日ここに事業報告書を作成し、多くの方々に私たちと日本財団のコラボレーションによるフロアホッケーの魅力や活動を発信することで、「みんなが、みんなを支える社会」の一助となれば幸いです。



特定非営利活動法人
日本フロアホッケー連盟
理事長 細川佳代子